

# KT-929

KENWOOD

## 取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お買いあげいただきましてありがとうございます。本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

### アフターサービスについて

1. 保証書：この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
  2. 保証期間：お買上げの日より1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が無料修理いたします。
  3. 保証期間経過後の修理については、お買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理いたします。
  4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年間です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
  5. なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店、またはトリオの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。
- ※ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際、大切な機器を保護するために是非保管し、ご利用ください。

### 付属品について

- T型FM室内アンテナ……………1、両ピンコード……………1  
75Ω/300Ωアンテナアダプター…1、AMループアンテナ……………1

### ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

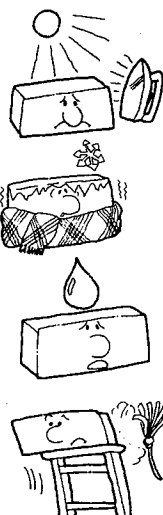
### 設置上のご注意

長時間直射日光に当てたり、暖房器具など発熱物の近くには置かないでください。高温(+50℃以上)は、ケースや部品に悪い影響を与えます。

極端に寒い場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

花びん、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。

不安定な棚などはさげ、ホコリ、振動の少ない水平な場所にセッティングしてください。



### 安全にお使いいただくために

本機は、交流100V専用です。クーラーなど三相200Vでは使えません。

ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となることがあります。

電源プラグの抜き差しは、ぬれた手でや行ないますと感電するおそれがありますのでご注意ください。抜くときは、プラグを持ってください。

電源コードを強くひっぱったり、無理に折りまげたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。

背面の電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。

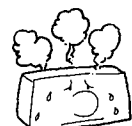
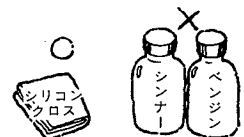
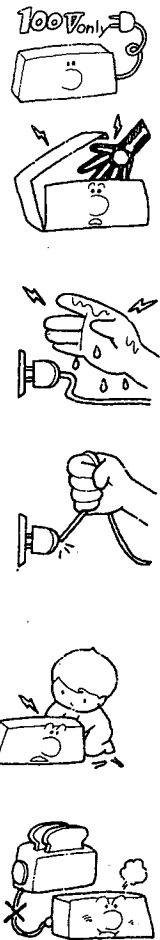
背面パネルの電源コンセントは容量より多い機器を接続しないでください。アイロン、トースターなどは絶対に接続しないでください。

### セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶさします。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。

### 異常にお気づきのさいは

煙がでている、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやくOFFにし、電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。



# 接続のしかた

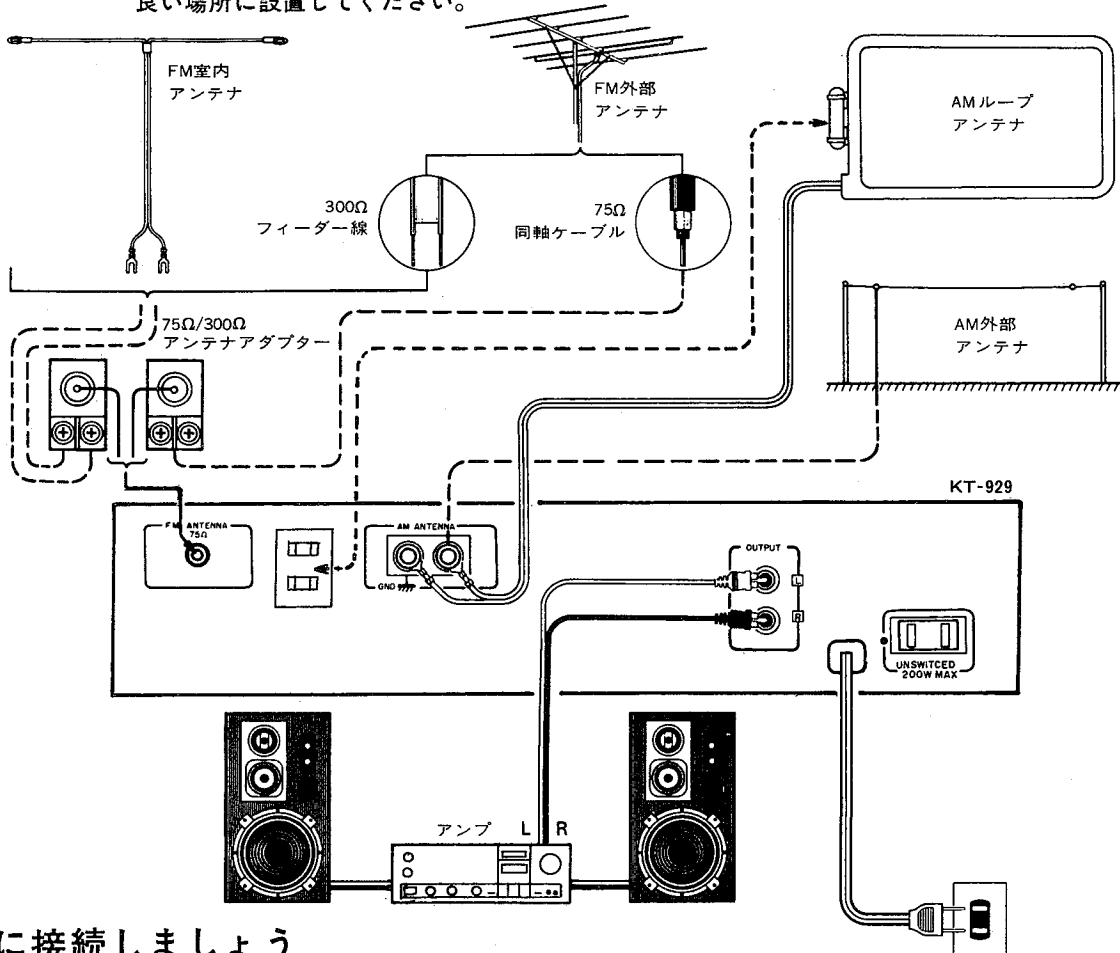
## アンテナを取付けましょう

**T型FMアンテナ** : アンテナアダプターのネジターミナル部にT型アンテナのYラグ部を接続し、FMアンテナ(FM ANTENNA)端子にアダプターを差込みます。

T型アンテナはFM専用外部アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

**AMループアンテナ** : ループアンテナのリード線のYラグ部をAMアンテナ(AM ANTENNA)端子に接続し、アンテナホルダーにループアンテナを押し込みます。また、ループアンテナをセット外に固定したいときは、ホルダーごとはずし、シールをはがして、ホルダーを壁などに固定してください。さらにホルダー中央の穴を通して、木ネジなどで、固定することもできます。

ループアンテナのリード線が不足するときは、リード線を追加して受信状態のもっとも良い場所に設置してください。



## アンプに接続しましょう

本機の出力(OUTPUT)端子とアンプの入力(TUNER)端子を、付属の両ピンコードで接続します。端子にはL(左)チャンネルとR(右)チャンネルがあります。必ず同じチャンネルにつないでください(上図参照)。

## 電源コードは壁のコンセントかアンプの非連動コンセントに接続しましょう。

### 非連動コンセント(UNSWITCHED 200W MAX)

電源スイッチ(POWER)に関係なく、このセットの電源プラグが壁のコンセントにさしこまれていれば常に電源をとれます。

本機は、記憶したプリセット内容の保持のために、電源スイッチ(POWER)を切ってもマイクロコンピュータ部にわずかな電流を供給しています。したがって電源コードは、壁面コンセントかアンプの非連動コンセントに接続してください。

なお、十分充電後は、電源コードを抜いても3日以上数日間はメモリーバックアップをしています。

### AC電源の極性について

本機のAC電源コードの片側には、灰色線の極性表示が施されています。ご使用のペアアンプの電源コンセントに(●)マークが付いている場合には、灰色線マークと(●)マークを合わせることで、電源の極性が統一され、ハム防止に有利なばかりでなく音質向上の一助にもなりますのでお試しください。

なお、従来通り極性にとらわれず接続されても結構です。

# 外部アンテナについて

## FM外部アンテナ

チューナーで一番大切なのは希望の電波を確実に十分キャッチすることです。そのためにはFM専用外部アンテナを必ずご使用ください。

電波が十分強くても、ビルの谷間や山に囲まれた地域では反射波で音が歪んだり、ステレオのセパレーションが悪くなります。このようなときはアンテナの指向性のするどい2素子位相差給電アンテナをご使用ください。

また、放送局から遠く電波が弱い地域では電界強度に応じて3素子、5素子、7素子のアンテナを選んでください。素子数が増せば利得が高くなり、指向性もするどくなります。

### アンテナとチューナーの接続

アンテナ端子にFMアンテナを接続するには、75Ω同軸ケーブルか300Ωフィーダー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

### 75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターのフタをあけます(図2参照)。
2. 75Ω同軸ケーブルを、図3のように処理し、アダプターに取付けます。(図3参照)
3. 本機背面のFM 75Ωアンテナ端子に差込みます。

### 300Ωフィーダー線を使うとき

付属のアンテナアダプターのネジターミナル部に、外部アンテナからの300Ωフィーダー線を接続し、FM 75Ωアンテナ端子に差込みます(アダプターには300Ω↔75Ωの変換器が入っています)。

### FM専用外部アンテナをたてる時

FM雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンよりでる雑音)があります。この雑音をさけるために、アンテナを道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所でFM外部アンテナをたてますと、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、または、お近くのトリオ営業所にご相談ください。

## AM外部アンテナ

### AMリードアンテナ

鉄筋住宅の場合などでループアンテナを接続しても、受信状態が悪いときは、AMアンテナ端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはってください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます(図4)。

### アースの接続

アースは、アース(GND)端子につなぎます。アースはしなくても放送受信はできますが、雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。但し、ガス管には、絶対に接続しないでください。

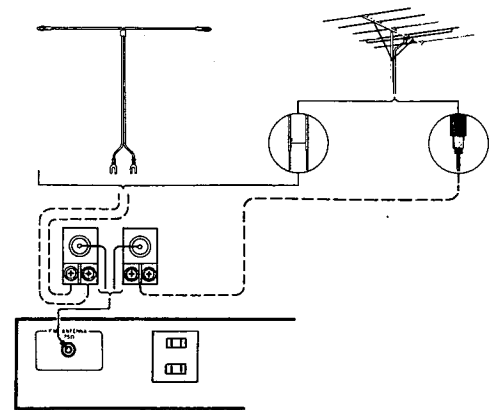
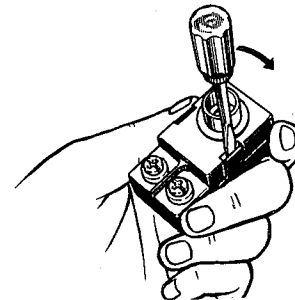


図1 FM専用外部アンテナの接続



図のような要領で小型のドライバーなどであけられます。なお、内部にあるシールドケースをはずさないでください。

図2 75Ω/300Ωアンテナアダプターのあけかた

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。

5C-2Vの場合は外被をむいて芯線と網線を出す。

3C-2Vの場合は外被をむいて網線を外被に折りかえす。



2. 加工した同軸ケーブルを、下図のように付属の同軸プラグに取付けます。

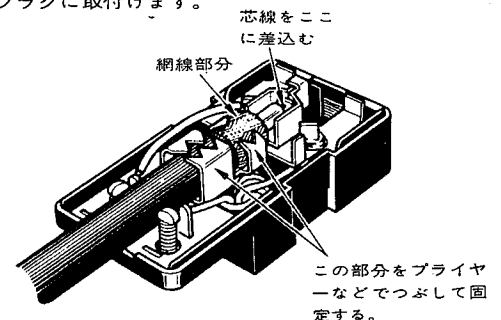


図3 付属のアダプターと同軸ケーブルの接続

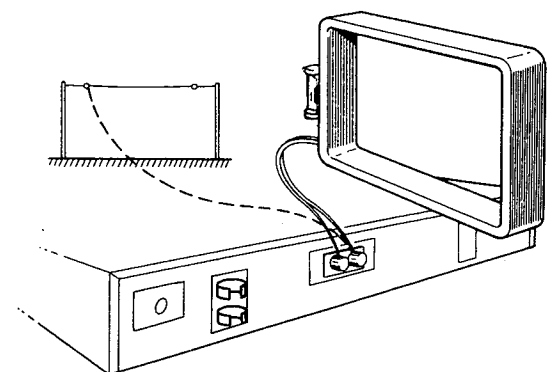
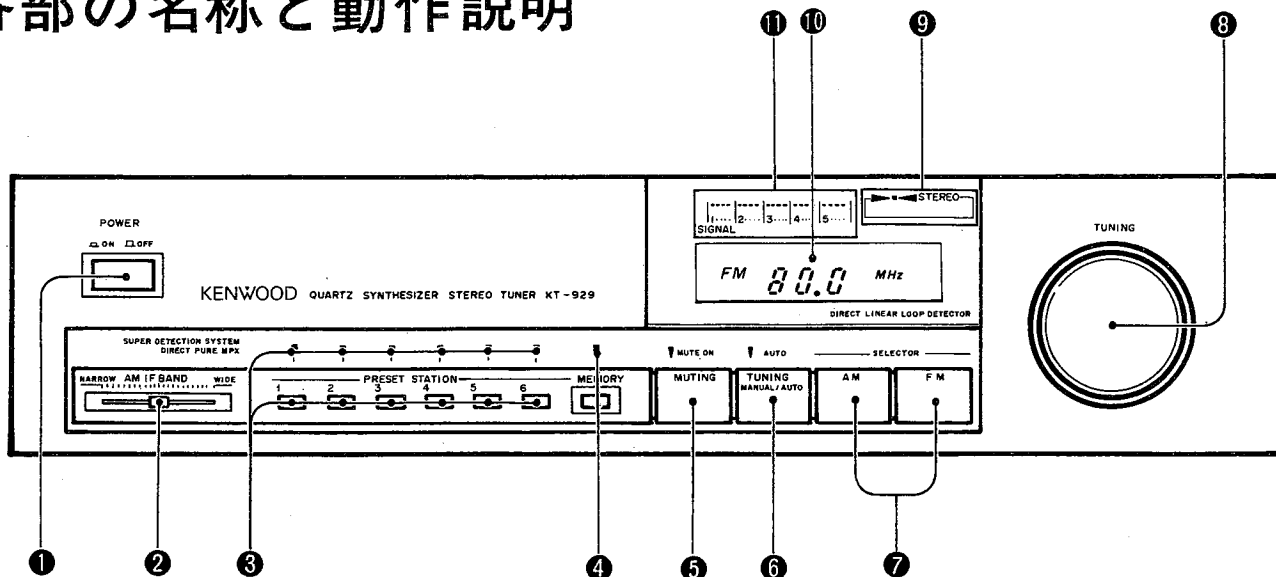


図4 AMリードアンテナの設置

# 各部の名称と動作説明



## ①電源スイッチ(POWER)

押す(≡)と電源が入り、もう一度押す(□)と切れます。

## ②AM IFバンドつまみ (AM IF BAND)

AM放送を受信する際、復調帯域を広帯域(WIDE)から狭帯域(NARROW)まで連続的に可変できます。

**WIDE** : 混信のない地域での通常的位置です。低ひずみでより音質のよい放送を受信することができます。

**NARROW** : プリエンファシスされた放送局を受信する場合や、混信がある場合の位置です。選択度特性がよくなり、混信のない受信ができます。

## ③プリセットステーションスイッチ, インジケータ (PRESET STATION)

それぞれのスイッチにAM 1局, FM 1局を記憶させることができます。スイッチを押すと、上部のインジケータが点灯し、周波数カウンターにこのスイッチに記憶させた周波数が表示されます。

## ④メモリースイッチ, インジケータ(MEMORY)

押すと上部にあるメモリーインジケータが点灯し、プリセットステーションスイッチ(PRESET STATION)へのメモリースタンバイ状態になります。

## ⑤ミュートスイッチ(MUTING)

このスイッチをONにしますと、FM放送選局のとき、局と局の間で雑音をカットします。このスイッチがON状態のときに、スイッチの上のインジケータが点灯します。

## ⑥チューニングモードスイッチ(MANUAL/AUTO, TUNING)

押すごとにオートインジケータ(AUTO)が点灯したり消えたりします。

**AUTO**点灯: オート選局状態となります。

**AUTO**消灯: マニュアル選局状態となります。

## ⑦セレクタースイッチ(SELECTOR)

**FM**: FM放送を受信するときに押します。

**AM**: AM放送を受信するときに押します。

## ⑧選局つまみ(TUNING)

AM, FM放送を選局するつまみです。AUTOモードのときに、このつまみを少し右に回すと周波数が上昇し、左に回すと下降します。

MANUALモードのときは、シグナルインジケータ(SIGNAL)をみながら、このつまみを回して希望の放送局の周波数を受信します。

## ⑨ステレオインジケータ(STEREO)

FMステレオ放送を受信すると点灯します。

## ⑩周波数ディスプレイ

AMまたはFMの周波数をデジタル表示します。選局時にはこの表示を見ながら正確な同調をとってください。

## ⑪シグナルインジケータ(SIGNAL)

受信した放送局の電波の強さを示します。もっとも多く点灯するようにアンテナ調整してください。

# 操作のしかた

## オート選局のしかた

- ①アンプの入力セレクターがTUNERになっていることを確かめてください。
- ②電源スイッチ(POWER)を押します。  
周波数ディスプレイが点灯し、ラストチャンネル\*が表示されます。
- ③AM放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)のAMを押します。  
周波数ディスプレイがAM表示になり、ラストチャンネルが表示されます。  
FM放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)のFMを押します。  
周波数ディスプレイがFM表示され、ラストチャンネルが表示されます。
- ④チューニングモードスイッチ(MANUAL/AUTO, TUNING)を押します。  
オートインジケータ(AUTO)が点灯します。
- ⑤周波数の高い局を選ぶときは、選局つまみ(TUNING)を少し右に回します。低い局のときには左に回します。周波数を自動的に走査して、放送局のある周波数で停止します。シグナルインジケータ(SIGNAL)が点灯し、放送が受信されます。
- ⑥音量と音質調整はアンプで行ってください。

### AM IFバンドについて

現在、AM放送はプリエンファシスをかけている局とそうでない局がありますが、本機では、AM IFバンドつまみ(AM IF BAND)の連続可変で次のように対応できます。

- プリエンファシス放送をきくとき……………NARROW側
  - 普通の放送をきくとき……………WIDE側
- にすると周波数特性がフラットになります。実際に放送を受信し、このつまみを調節して音質をかえることもできます。

### ※ラストチャンネル

メモリーバックアップがされていれば電源を切る寸前の周波数が記憶されます。この周波数をラストチャンネル周波数と呼び、再度電源を入れるとこの周波数が表示されます。

## マニュアル選局のしかた

オート選局では選局できない電波の弱い局、または放送局の周波数がわかっている局を受信したいときは、マニュアル選局をしてください(AM, FM両方で可能です)。

- ①“オート選局のしかた”の①~③項を行います。
- ②チューニングモードスイッチ(MANUAL/AUTO, TUNING)でオートインジケータ(AUTO)を消灯させます。  
オートインジケータ(AUTO)が消えるとマニュアル選局となります。
- ③選局つまみ(TUNING)を調節して、希望の放送局を受信します。

### ご注意：

FM放送の場合は、マニュアル選局のままですとモノラルになってしまいます。ステレオ放送のときは選局後に再びチューニングモードスイッチ(MANUAL/AUTO, TUNING)を押してオートインジケータ(AUTO)を点灯させてください。

## プリセットメモリーのしかた

- ①放送局を受信します。
- ②メモリースイッチ(MEMORY)を押します。  
メモリーインジケータが点灯(約13秒)します。
- ③メモリーインジケータが点灯している間に任意のプリセットステーションスイッチ(PRESET STATION)を押します。  
メモリーインジケータが消え、ステーションインジケータが点灯し記憶の完了です。

プリセットステーションスイッチ(PRESET STATION)にお好みの放送局の周波数をメモリーすれば、いつでも聞きたい局をプリセットステーションスイッチ(PRESET STATION)を押すだけで選局できます。

### ※オートブレンド

本機にはFMオートブレンド回路が内蔵されています。FM受信時、弱電界でもノイズの発生が少なく、快適にステレオ放送が受信できます。

なお、シグナルインジケータ(SIGNAL)の点灯が2以下の場合、ステレオセパレーションは除々にモノラルに近づきます。

# 故障と思われる症状ですが…

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

	症 状	原 因	処 置
FM受信時に 起りやすいこと	バリバリ、ガリガリという 雑音が入る	自動車などのイグニッションノイズ	アンテナを道路から離して設置し、接続コードは300Ωリボンフィーダー線よりも75Ω同軸ケーブルを使用する
AM受信時に 起りやすいこと	ジーツという連続音が入る 特に夜間大きい	電気器具(蛍光灯など)による雑音や空電という雑音がアンテナから入る	屋外にAMリードアンテナを設置し、アースを取れば減少しますが、完全にとり除くことはむずかしい
	放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る	●電源コードの差込み方向ででることがある ●地区的にでることがある	●電源コードの差し込みをかえてみる ●交流電源の使用時には特定の局にハムがでるのはやむをえません
	チーツ、シーツという高い連続音が入り、大きくなる	●テレビから出る雑音 ●AM放送局間の干渉による9kHzのビート音	●テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある) ●AM放送方式の欠点で取り除けません
シャワーで起りやすいこと	ステーションスイッチ(PR-ESET STATION)を押しても受信しない	放送局の周波数をメモリーしていない	放送局の周波数を確認、確実にメモリーする
	ステーションスイッチ(PR-ESET STATION)にメモリーしたのにメモリーが消えている	電源コードの接続が無いためバックアップが完全でない	電源コードは必ず壁面コンセントなど、常に切れない場所に接続する

## 定 格

……………これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更になることがあります。

### [FMチューナー部]

受信周波数範囲	76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス	75Ω不平衡
感度 (IHF) 75Ω	0.95μV, 10.8dBf
SN比50dB感度	MONO ……1.8μV, 16.2dBf STEREO ……24μV, 38.8dBf
高調波ひずみ率 <sub>β</sub> (100%変調)	MONO 100Hz ……0.009% 1kHz ……0.007% 15kHz ……0.03% 50Hz~10kHz ……0.02%
	STEREO 100Hz ……0.03% 1kHz ……0.0095% 15kHz ……0.2% 50Hz~10kHz ……0.1%
SN比 (100%変調)	MONO(85dBf入力) ……98dB STEREO (85dBf入力) ……88dB
キャプチャーレシオ	……1.8dB
実効選択度 (IHF: ±400kHz)	……90dB
ステレオセパレーション	1kHz ……69dB 50Hz~10kHz ……55dB 15kHz ……50dB
周波数特性	……20Hz~15kHz, ±0.5dB

イメージ妨害比 (84MHz)	……96dB
IF妨害比 (84MHz)	……120dB
スプリアス妨害比 (84MHz)	……120dB
AM抑圧比 (65dBf)	……72dB
サブキャリア抑圧比	……70dB
出力レベルおよび出力インピーダンス	FM 1kHz, 100%変調 固定出力 ……600mV, 1.7kΩ

### [AMチューナー部]

受信周波数範囲	……522kHz~1611kHz
感度	……10μV ; 250μV/m
SN比 (30%変調, 1mV入力)	……52dB
高調波ひずみ率 (1,000kHz)	……0.3%(WIDE)0.6%(NARROW)
イメージ妨害比 (1,000kHz)	……40dB
IF妨害比 (1,000kHz)	……60dB
選択度 (IHF)	……30dB(WIDE)50dB(NARROW)
出力レベルおよびインピーダンス(400Hz, 30%変調)	……180mV, 1.7kΩ

### [電源部・その他]

電源電圧・電源電波数	……AC 100V, 50/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示)	……11W
寸法	……幅340×高さ84×奥行367(mm)
重量	……正味3.9kg

■アフターサービスのお問合せは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。  
その他商品に関するお問合せは、お客様相談室をご利用ください。 電話 (03) 486-5515

トリオ株式会社

本 社 東京都渋谷区渋谷 2-17-5 シオノギ渋谷ビル 〒150 電話 (03) 486-5511